



## 物流機能強化、進化し続ける港へ

### 高砂CT第3バースの供用開始

東北エリア唯一の国際拠点港湾である仙台塩釜港。同港では、貨物の取り扱い拡大に向けた物流機能強化の取り組みが加速している。今年度は、昨年4月に仙台港区高砂コンテナターミナルで第3バースの整備を完了し、供用を開始した。ふ頭拡張工事やガントリークレーンの更新も行われ、寄港便数の増加や船舶大型化、将来的な貨物増加への対応が進んでいる。同月から危険物の取り扱いも再開され、取扱品目の幅も広がった。同港でさらなる取扱拡大が期待される。

#### 物流の課題解決へ利用促進

仙台塩釜港は2012年10月に当時の国際拠点港湾である仙台塩釜港と重要港湾の石巻港、地方港湾の松島港の3港が統合して誕生した。仙台港区・塩釜港区・石巻港区・松島港区の4つの港区から成る。その中で、仙台港区はコンテナや完成自動車などを扱うユニットロード貨物の拠点となっている。現在、中国・韓国を中心に国際コンテナ定期航路が4航路・7便就航しており、上海や釜山などの主要港とダイレクトな取り引きが可能となっている。また京浜港で貨物を積み替えて世界各国とを結び、国際フィーダーコンテナ定期航路も充実

しており、現在計5航路・週9便が就航している。

仙台塩釜港仙台港区の23年の貨物取扱量は前年比3.3%増の3465万トン。3年連続で増加した。このう

ち外貿貨物は980万トンで全体の28%、内貿貨物が2485万トンで72%を占めた。輸出貨物は122万トン、輸入貨物は858万トンで輸入貨物が取り扱いの中心となっている。



高砂コンテナターミナル

また移出貨物は1229万トン、移入貨物は1256万トンだった。

コンテナ貨物取扱量(外内貿合計、空コンテナを含む)では23年は6.6%減の23万8231TEUだった。同年から過去10年間分を振り返ると、コンテナ貨物取扱量は19年をピークに減少している。内訳を見ると、輸出が15.2%減の5万9219TEU、輸入が13.6%減の6万1753TEU、移出が4.6%増の6万124TEU、移入が1.7%増の5万7135TEUだった。品目別では、輸出でゴム製品が大きな割合を占めており、輸入は電気機械や木製品などの取り扱いが多かった。国別では、輸出で米国向けが最も多く、タイ向け、ベトナム向けと続いた。一方、輸入は中国発が約4割を占め、韓国発、タイ発と続いた。

一方、24年の貨物取扱動向について、宮城県によれば、輸移出、輸移入ともに前年と同程度の取扱量を維持しているという。品目別では、主要貨物であるゴム製品のほか、近年は自動車用のバッテリーなども安定的に取り扱っている。また国別では、中国向けの貨物が前年と比較して増加傾向にある一方で、東南アジア向けの貨物は前年よりも取扱量が減少傾向にある。ただ、その他の地域と比較すると、依然として東南アジア向け貨物の取り扱い割合は引き続き高い水準となっているという。



高砂コンテナターミナル第3バースの供用を記念して式典を開催した

25年については、さらなる取扱量拡大に期待する声が上がっている。トラックドライバー不足の深刻化や「物流の2024年問題」を受けて、モーダルシフトがますます活発化すると見方があり、これにより仙台塩釜港を含めて地方港の活用が増えていくといった見方がある。物流事業者からは、国際フィーダー航路の引き合いが増えているといった声もあるようだ。他方、トラックドライバー不足をはじめとする物流の課題に対して具体的な対策を検討していない企業も少なくないのが現状となっている。宮城県は「今後はまだ具体的な対応策を検討していない企業に対して、ドライバー不足対策やCO<sub>2</sub>排出量削減、脱炭素化といった視点から仙台塩釜港を利用してもらうことができるようにメリットを発信し、さらなる取扱量拡大

につなげていきたい」とコメントしている。

### 昨年4月に危険品再開

仙台塩釜港仙台港区では昨年4月、高砂コンテナターミナル第3バースの供用を開始した。仙台港区では、国際物流ターミナルとしての機能強化を図るため、2017年度から「向洋地区ふ頭再編改良事業」として高砂コンテナターミナルの整備を進めてきた。具体的には3号岸壁の整備と4ヘクタールのふ頭拡張工事を実施した。これにより、コンテナ船の同時接岸数の増加による滞船の解消や将来見込まれるコンテナ貨物量の増加に対応することができる。また、今後はこれらの貨物取り扱い機能の向上を踏まえ、宮城県は「現在就航している船会社とさらなる連携強化を図るととも

## フネ×ヒトのチカラで、日本の未来を明るくデザインする

京浜 ⇄ 仙台

常陸那珂 ⇄ 苫小牧

東京 ⇄ 大阪 ⇄ 那覇



 近海郵船株式会社

本社 〒105-0012 東京都港区芝大門1-9-9 野村不動産芝大門ビル7階 TEL 03-5405-8300 FAX 03-5405-8289  
 東京営業部 TEL 03(5405)8290 仙台営業所 TEL 022(786)1890  
 常陸那珂営業所 TEL 029(264)2700 近海郵船北海道(代理店) TEL 0144(52)5730



# 仙台発香港経由で、全世界へ



JAPAN


 仙台

## 仙台発海上貨物輸送は、 信永海運にお任せください。

小口の海上混載輸送を提供する信永海運は、  
仙台発香港経由で全世界へお客様の貨物運びます。

東北地方の皆様のニーズに合わせた  
輸送サービスをご提供いたします。

CHINA


 世界へ


 香港


## 信永海運株式会社

## ■本社

〒105-0011 東京都港区芝公園1-8-12  
芝公園大門通プラザビル7階  
TEL : 03-5405-7600 FAX : 03-5405-7400

## ■横浜支店

〒231-0005 神奈川県横浜市中区本町3-30-7  
タイムクロス横浜5階  
TEL : 045-210-0766 FAX : 045-210-0767

## ■名古屋営業所

〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦1-11-11  
名古屋インターシティ5階  
TEL : 052-209-9388 FAX : 052-209-9389

## ■大阪支店

〒541-0044 大阪府大阪市中央区伏見町4-2-14  
WAKITA 藤村御堂筋ビル6階  
TEL : 06-6220-2800 FAX : 06-6220-2811

## ■福岡営業所

〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東2-2-2  
博多東ハニービル6階  
TEL : 092-452-8025 FAX : 092-452-8028

## ■仙台連絡事務所

〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡3-4-18  
オークツリー榴岡2階  
TEL : 022-742-5022 FAX : 022-742-5023

BOOKINGフリーダイヤル ☎0120-549-489 <https://www.shinyei-ship.co.jp>



ガントリークレーンを更新した

に、近年貨物の取扱量が増加傾向にある東南アジア方面への新規航路や、要望の多い北米航路の誘致を見据えた集貨促進に注力していく」としている。さらに国際戦略港湾である東京港や横浜港との連携も推進し、国が進める国際戦略港湾政策に貢献するため国際フィーダーコンテナ定期航路の維持・拡大を推進していく方針だ。

また高砂コンテナターミナルでは、整備から約30年以上が経過したガントリークレーン3号機の更新も行った。これにより、従来機よりも作業能力が向上し、より大きな船舶の荷役が可能となった。コンテナ吊り下げ時に発生するエネルギーから消費電力の約4割を回収できるなど脱炭素化にも貢献している。

さらにヤード拡張工事に伴い、高砂コンテナターミナルでは危険物コンテナの取り扱いを本格的に再開した。

関係者からは「東北エリアでの危険物需要は一層増えると見られる」といった声もあり、さらに危険物の取り扱い需要は高まると期待されている。

その他にも、仙台塩釜港の各港区では物流機能強化に向けた港湾施設の整備が進んでいる。大型バルク貨物を扱う原材料・燃料の輸入拠点として機能する石巻港区では、国の直轄

事業により水深12メートルの耐震強化岸壁などの整備に重点的に取り組んでいる。大規模地震の切迫性が高まる中で耐震強化岸壁を整備することで、物流機能の維持のみならず、地域の防災拠点としての機能を担う。宮城県は「県が施工する背後のふ頭用地の造成と合わせて、国と緊密に連携しながら一日も早い完成に取り組んでいる」としている。

また、今年度から宮城県は仙台塩釜港の港湾計画の改訂に向けた長期構想の策定に着手した。船舶の大型化や貨物の動向などを踏まえて仙台塩釜港における各港区の機能分担の在り方や整備方針などを検討していく。宮城県は今後設置する長期構想委員会で、有識者や港湾関係者と意見交換を行いながら、仙台塩釜港のさらなる利活用促進や機能強化に取り組んでいく。



仙台塩釜港港湾脱炭素化推進協議会を開催した



## 内航コンテナ輸送のパイオニア



**井本商運株式会社**

代表取締役社長 井本 隆之

〒650-0035 神戸市中央区浪花町59番地 神戸朝日ビルディング  
TEL (078) 322-1600 FAX (078) 322-1620  
<https://www.imotoline.co.jp>

### 来年度ポートラジオ導入

仙台塩釜港では、環境負荷軽減やデジタルトランスフォーメーション(DX)の取り組みも進んでいる。昨年3月には、カーボンニュートラルポートの形成に向けて「仙台塩釜港港湾脱炭素化推進計画」が策定された。同計画の策定から半年以上が経過し、宮城県では各社の取組状況を確認・共有するなど計画の進捗に取り組んでいる。まずは、短期目標である2030年度のCO<sub>2</sub>排出量の50%削減の達成に向けて、年間削減実績の見える化など適切な進捗管理を進めている。脱炭素化の取り組みでは、既存ターミナル照明灯のLED化などの省エネ対策や、次世代エネルギー転換など新たな取り組みの促進について、関連技術の進展も見極めながら官民連携して取り組んでいる。

港湾でのDXの取り組みでは、港湾

荷役事業者に高砂コンテナターミナルのヤード情報を直接メールで知らせるサービス「Ta co-net」や、コンテナ貨物の搬出をウェブで予約可能なサービスの提供などを実施している。宮城県は「引き続き、仙台塩釜港の利便性が高まるよう、港湾荷役事業者と連携してDXを推進していく」とコメントしている。

そのほか、来年度からの取り組みでは今年4月に仙台港区では「せんだいポートラジオ」の運用を開始する予定だ。仙台港区は多種多様な船舶が往来しており、さらに掘込式港湾という特性から、単一航路での船舶輻輳が顕著となっている。情報の一元



高砂コンテナターミナルでの作業の様子

化やリアルタイムでの動静把握、水域を含めた港湾施設の利用調整などの航行支援を担うポートラジオの導入に期待が寄せられているという。近年のモーダルシフトの進展などにより今後仙台塩釜港への入出港船舶が増大した場合でも、従来よりも円滑に、安心して港が利用されるよう、適切な管理・運営を推進していく方針だ。



## 船の軌跡を 未来の功績に

コンテナ船 11 隻 一般貨物船 4 隻を運航

鈴与海運株式会社 <https://www.suzuyomarine.co.jp/>

- 本社(コンテナ課 東日本チーム) 054-354-3101 east-sales@suzuyomarine.co.jp
- 本社(コンテナ課 西日本チーム) 054-354-3101 west-sales@suzuyomarine.co.jp
- 東京営業所(一般貨物) 03-3432-7159 tokyo-sales@suzuyomarine.co.jp

Think customer. Best solution for regional port.



全国43港 ↔ 韓国/中国/東南アジア/極東ロシア

**SKR SINOKOR**  
長錦商船株式会社  
Sinokor Merchant Marine Co., Ltd

日本総代理店

株式会社 シノコー成本  
<http://seihon.sinokor.co.kr>

東京 TEL 03-6281-8272  
〒103-0027 東京都中央区日本橋2-13-10  
日本橋サンライズビル2階

大阪 TEL 06-6253-7660  
九州営業所 TEL 093-322-2722

三陸運輸

# 設備拡充で多様化するニーズに対応

三陸運輸は多様化する物流需要に対応すべく、設備やサービスの拡充を進めている。今年度は昨年4月に取り扱いを再開した危険品類や、足元で輸入が増加しているコンテナ型蓄電池などの取り扱いの拡大に注力している。また子会社で輸送部門を担う三陸輸送で車両の増強も進めており、協力会社とも連携しながら、さまざまな貨物に対応した利便性の高いサービスを提供している。

危険品類は、仙台塩釜港仙台区で一時的に取り扱いを停止していたが、再開以降、着実に取扱量を伸ばしている。同月は高圧ガス(ISOタンクコンテナなど)の取り扱いも開始した。三陸運輸は「半導体関係の高圧ガスなどを含め、今後の需要拡大に期待したい」とする。再生可能エネルギー分野では従来の太陽光関連貨物に加え、風力発電部材の問い合わせが増えている。昨年後半からコンテナ型蓄電池の輸入が好調だ。同社はリーチスタッカーを所有する。これにより特殊コンテナを円滑に取り扱える点を強みとする。

またコンテナターミナル近くで2019年に開設した「仙台港蒲生事業所」ではトップリフターを配備し、コンテナの保管や直置き作業に対応している。コンテナシャーシごと重量を計れるトラックスケール(台貫)やリーファーコンテナの電源設備も備え、さらなる輸送効率化に取り組んでいる。

輸送設備面では、今年度、20フィー



高砂コンテナターミナル

トコンテナフル積載シャーシを導入し、リーファーコンテナへの電力供給が可能なMGシャーシも増車した。20フィートコンテナフル積載シャーシはコンテナ型蓄電池をはじめとする重量のある20フィートコンテナやタンクコンテナを輸送でき「おおむね40フィートコンテナと同等の重量で配送できる」(三陸運輸)という。MGシャーシは20フィート、40フィートコンテナ用を合わせて7台。冷凍貨物に加え、プラス温度帯で輸送するサツマイモなどの農産物も取り扱う。また温暖化の影響などで、従来ドライコンテナで運んでいた貨物も温度管理が必要

となるケースが増えており、リーファーコンテナの需要拡大に対応していく。その他、コンテナを傾けて中身を取り出すことができるダンプアップトラックヘッドも保有。これにより鉄鋼原料や木質ペレットなどバラ積みのコンテナ貨物を納品先で一気に降ろすことができる。

三陸運輸は、「地域物流の中核を担い、既存貨物の一層の効率化と新たな貨物需要への柔軟な対応を追求している。変化する物流ニーズを先取りし、宮城・東北の総合物流業者として成長を止めず、さらなる高みを目指している」とコメントしている。



■仙台港本社

宮城県仙台市宮城野区港四丁目9番6号

TEL 022-253-7708

http://www.sanriku-unyu.com/

宮城 仙台の港から、  
東北と世界を結ぶ総合物流企業

## 三陸運輸株式会社

- 港湾運送事業
- 複合一貫輸送事業
- 貨物利用運送事業
- 倉庫業
- 通関業
- 航空貨物取扱業
- INVOCC 事業

お問合せはこちら



## NX仙台塩釜港運

## 取り扱い拡大へ効率化推進

NIPPON EXPRESSホールディングス(NXHD)傘下のNX仙台塩釜港運は、貨物の取り扱い拡大に向けた体制強化や効率化に取り組んでいる。体制面では、中長期的に現業部門を一元化して、点在している事業所を集約し、社内の戦力を効率的に活用していく方針だ。拠点や事業の集約により、従業員が働きやすい職場を実現していく。



仙台塩釜港での作業の様子

同社は、仙台塩釜港で常に変化する物流需要に対応しながら貨物の取り扱い拡大を進めている。足元では、同港で2023年11月から再生可能エネルギー発電事業に関わるバイオマス専焼発電事業が本格稼働し、同社でも木質ペレットやPKS(パーム椰子殻)の港湾荷役の取り扱いが増加した。さらに25年にも仙台港区で新たなバイオマス専焼発電事業を本格稼働する計画があることから、木質ペレットなどバイオマス燃料貨物のさらなる取扱増加を見込んでいる。また、仙台港区では昨年4月から高砂コンテナターミナルで危険品の取り扱いが再開され、高圧ガスの取り扱いも開始した。これにより危険品の取り扱いも増加傾向にあり、同社としてもさらなる取り扱い拡大に取り組んでいく。「今後は化学品や危険品などを製

造工程で使用するメーカーが仙台塩釜港を利用するケースが増え、取り扱い増加にもつながると期待している」(NX仙台塩釜港運)とした。その他、航路誘致に関しては東南アジアダイレクトサービスの再構築に注力していく。

設備面では、貨物の取り扱い能力を向上させるため、高砂コンテナターミナルでストラドルキャリア方式からテナー方式への荷役の転換を検討している。現在使用しているストラドルキャリアの中には東日本大震災で被災したものもあり、老朽化が進んでいる。「第3バースの供用開始を機に行政が主体となって事業計画を進めてもらいたい」とした。

また、社内の業務効率化にも積極的に取り組んでいる。特にIT推進に力を入れており、RPA(ロボティクス・ブ

ロセス・オートメーション)を活用した業務データ入力や請求書データ作成の省力化、ペーパーレス化、着信仕分けを導入する予定だ。オペレーション削減と事務の効率化につなげる。加えて、社員の出退勤情報管理から給与管理システムへのデータ連携による事務作業の削減や、システムによる現場作業計画の管理で情報の共有化と手配の効率化を進めていく。

人財の確保に向けては魅力ある職場づくりを目指している。地域の教育機関の協力により機会を得て、年齢を問わずに港湾の仕事を知ってもらう取り組みを実施している。また、若手社員や女性社員のジョブローテーションを実施してスキルアップを支援している。さまざまな業務に対応できるように資格取得のサポートにも力を入れている。

KAIJI PRESS Daily  
海事プレス&Cargo

巻頭特集

## 地方港、人材不足が 存続揺るがす

第2特集:「内陸の港」へ飛躍するICD

第3特集: 地方港インセンティブ

第4特集: 地方港データファイル

第5特集: 2024年問題、海上シフト着々と



QRコード  
電子版にて  
公開中!!

## 丸山運送

## 危険品取り扱い体制を構築

丸山運送は危険品のワンストップソリューションサービスの提供を目指している。同社は2022年8月に蒲生北部エリアに危険品倉庫「蒲生倉庫」を開設した。これに合わせて危険品の保管・配送サービスを開始し、自社での危険品の取り扱い体制を構築した。将来的にはさらなるサービス拡充を図り、東北エリアの危険品の取り扱いニーズに対応した取り組みをさらに加速させていく。

蒲生倉庫は仙台港コンテナターミナルから約1キロ、仙台港インターチェンジから3.5キロに位置している。敷地面積約4万平方メートル、倉庫面積1000平方メートルで「危険品倉庫として法令で定められている上限のスペースを確保した」(丸山運送)という。同倉庫では、危険物第4類を取り扱い対象としており、主に燃料・塗料・接着剤・メタノール・エタノール・作動油・潤滑油・動植物油などの保管に対応している。丸山運送は「蒲生倉庫で危険品の取り扱いがすぐに増えるわけではないが、徐々に東北エリアでの危険品の取り扱いスキームは変わってくると見ている」と話す。蒲生倉庫は海上コンテナのバンニング・デバンニング作業にも対応している。そのため、「従来は京浜港から関東地区の危険品倉庫に保管された後に東北エリアに配送されていた危険品が、仙台港から輸入され、仙台地区の危険品倉庫を経由して東北エリアに配送される流れが確立するだろう」とし



蒲生倉庫

ている。

同倉庫は、既存顧客からの要望を受けて開設した。丸山運送では従来、危険品の保管・配送については協力会社に依頼していたが、協力会社では仙台地区に危険品倉庫がなく、また取り扱い可能な危険品の種類も限定されていた。一方で蒲生倉庫は顧客からの要望に応じて第4類以外の危険品の取り扱いも可能とする。また、スポット案件にも柔軟に対応していく。同倉庫の開設以降、危険品の取り扱いにかかる引き合い・問い合わせは着実に増えているという。

さらなるサービス強化に向けて、丸山運送は蒲生倉庫の一部(500平方メートル)について保税蔵置場の設置許可の取得を検討している。保税蔵置場を設置することで、貨物のバンニングから通関まで一気通貫で対応し、利便性の向上を図る。また今後、PL法にも対応した体制を構築することでサービス内容の充実を図る予定だ。さらに、蒲生倉庫と同じ敷地内にはさらに危険品倉庫を建設する計画で、引き続き東北エリアで需要拡大が期待される危険品の取り扱いを強化していく。

Maruyama

## 国際複合一貫輸送で 物流課題を解決！

仙台港隣接のMaruyamaは、国内トラック輸送(トラック230台保有)、倉庫(保税)、保管、輸出梱包の他、輸出入通関やNVOCCとして国際物流事業など幅広くサービスを提供しています。

- 輸出入通関/通関士16名が所属  
自社通関 / 仙台・東京・横浜・博多・門司
- フォワーディング  
世界30ヶ国以上の代理店ネットワーク
- 輸出梱包 / 自社梱包センター  
商品の特性や仕向け地に合わせた梱包仕様を提案
- 危険物倉庫(第四類)  
仙台港エリアで唯一の危険物倉庫

the 080

株式会社 丸山運送

仙台市宮城野区港4-1-2

TEL 022-258-0665